

附録1：知れば共存が見えてくる 兵庫県のツキノワグマ 2017年度版



生息している地域



木の実やドングリなどがある
広葉樹の森に生息しています。

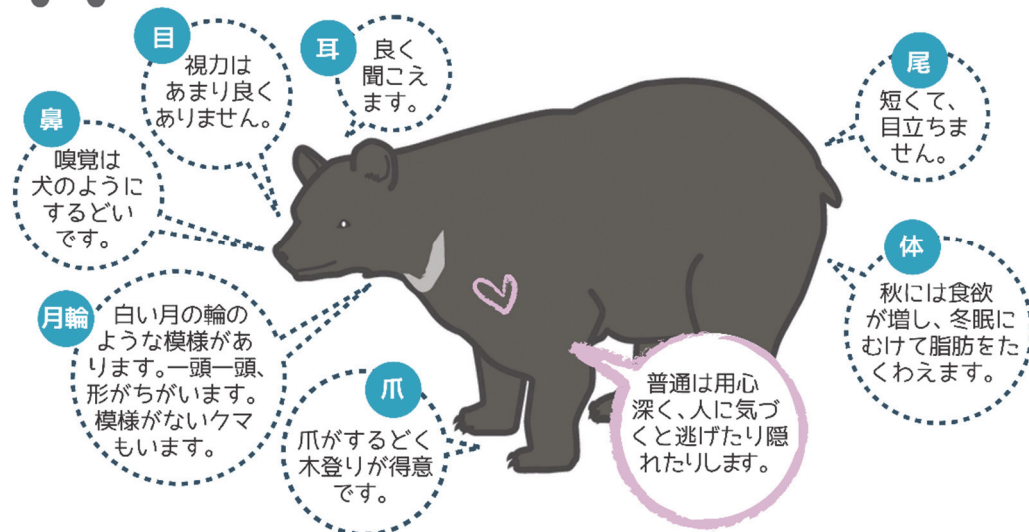


兵庫県では、北部に「近畿北部個体群」と「東中国個体群」の2つの生息地があり、円山川をはさんで分布域が分断化され絶滅が心配されていました。しかし、近年では、絶滅の危機が解消されるまで生息数が回復しています。また、2つの個体群の遺伝的な多様性も上昇してきていることがわかりました。



体の特徴

体重：オスは 60～150kg メスは 40～80kg
体長：110～130cm 体高：50～60cm



今、問題になっていること 悪いクマを作らないで！

人里近くにクマが出没するようになると、人身事故の危険性が高くなります。



ツキノワグマは本来、山の中で暮らす動物です。しかし、食べ物を探して動き回っているうちに、人里にカキなどの食べ物があることを覚えると、そこに繰り返し出沒するようになります。

解決に向けた取組み こんな対策が必要です

クマの保全には、被害を防ぐことが最も重要です。クマを人の生活圏から遠ざけ、クマと人の接触を避ける必要があります。

クマがすむ地域の方

クマを人里に引き寄せない

① クマが好きなものを里に置かない

ゴミを野外に置かない



生ゴミはクマを誘引します。屋外に置かないようにする必要があります。
また、田畑への残飯まき、収穫しない作物の放置もクマを引き寄せてしまいます。



果実は放置しない

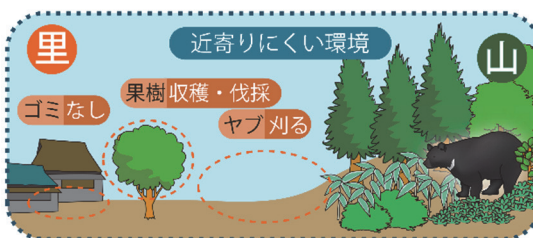
クマの好物であるカキやクリは早めに収穫するか、電気柵などで守りましょう。収穫しない不要な場合は、出来るだけ伐採することをお勧めします。



② ヤブは刈り取る

里と山の間にクマが隠れるヤブがなくなると、クマは山から出てきにくくなります。

住居や通路周辺のヤブは刈り取って見通しをよくすることで、遭遇を避けることができます。

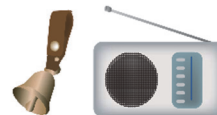


クマがすむ森へ入る方

クマとばったり出合わない

① 山へは音の出るものを持っていく

人の気配に気づくと、基本的にクマは人を避けます。鈴やラジオなど人工的な音の出るものを身に付けましょう。雨の日や川沿いは、人間の臭いや物音がクマに伝わりにくいので、大きな音を出しましょう。



② 夕方から朝まで、遭遇事故の危険性が高い

森に暮らすクマは昼行性ですが、人里に下りて活動する時には、夜行性になることが知られています。クマが出没している情報が出た場合は、事故の起こりやすい夕方～朝の外出時は注意しましょう。

ツキノワグマ管理計画に基づいた対策

兵庫県では「ツキノワグマ管理計画」を策定し、クマと人間の棲み分けをはかることを目的としたゾーニングによる管理など、科学的な保護管理を進めています。

特定鳥獣管理計画の詳細については、森林動物研究センターのホームページ <http://www.wmi-hyogo.jp/plan.html> をご参照ください。



人里に出没した時の対応

① 注意喚起・防護・誘引物の除去

地域住民に対し、出没場所へは近づかないなどの注意喚起を徹底し、クマを誘引している原因を取り除く対策をとります。

② 追い払い



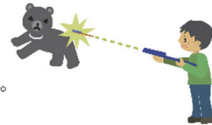
轟音玉（動物駆逐用煙火）



追い払い

出没した時には、ロケット花火や爆竹、轟音玉などで追い払い、人里がこわいと教え込みます。

※追い払いには危険が伴います。
市役所や町役場にご相談ください。



③ 有害捕獲（捕殺）



推定生息数の増加に伴い、集落への出没が増加しており、人身事故等の危険性が高まっています。人の安全の確保のため、有害捕獲による殺処分は避けられません。そうならないために、「クマを人里に引き寄せない対策」を事前に徹底する必要があります。

被害防除の支援

防護技術支援及び普及啓発



出没現場における誘引物管理や電気柵による防護方法などを普及しています。



遭遇を避けるために必要な知識や対策を普及しています。

科学的モニタリング

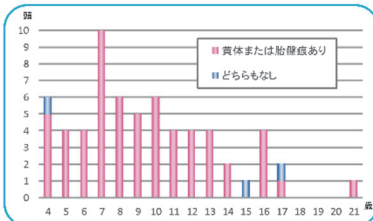
生息動向の把握

生息状況、繁殖状況、遺伝的多様性の変動を継続的に調査分析しています。また対策の影響を分析します。



繁殖状況

雌のツキノワグマの成獣（4歳以上）63頭の子宮内の胎盤痕及び黄体を調査した結果、95%が妊娠している可能性が判明し、良好な繁殖状況にあります。

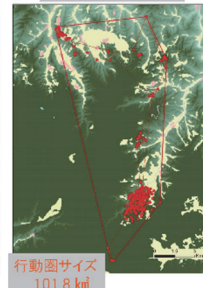
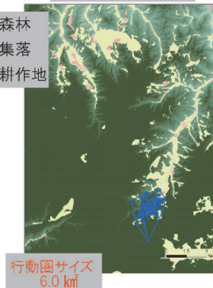


行動調査（同一のメス成獣）

豊作年 7月～11月

凶作年 6月～11月

■ 森林
■ 集落
■ 耕作地

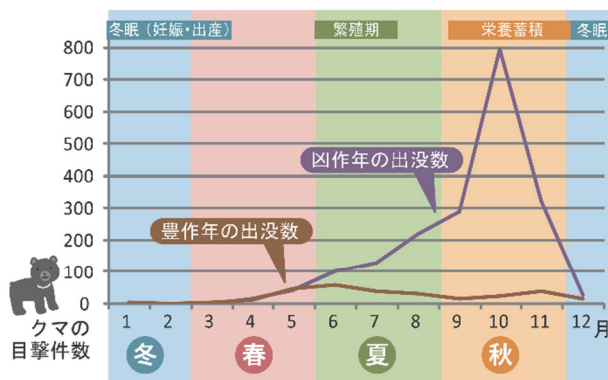


発信機を装着したクマの行動調査結果から、ドングリ類の豊凶等により行動圏を変化させるなど、柔軟に行動する能力が認められています。

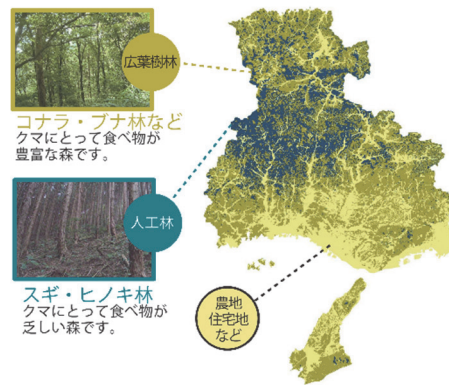


ドングリとクマの関係

ドングリは動物にとって、栄養価の高い良質な食物です。ドングリなどの木の実が「たくさんなる年（豊作年）」と「あまり成らない年（凶作年）」があります。凶作年にクマの人里への出没が増えます。



※ ドングリとはブナ、ミズナラ、コナラなどの実の総称です。



ドングリが凶作の年の秋には、クマが人里のカキやゴミなどに引き寄せられ、多く出没することがあります。

豊作の年には、人里での目撃は少なくなります。ただ、初夏は繁殖期のため、行動範囲が広がり、目撃が増えることがあります。

兵庫県 森林動物研究センター
Wildlife Management Research Center, Hyogo

〒669-3842 丹波市青垣町沢野940
TEL: 0795-80-5500 FAX: 0795-80-5506 HP: <http://www.wmi-hyogo.jp/>



森林動物研究センターでは、クマの生態調査や被害に強い集落づくりの指導・助言を行っています。

古紙を含んだ紙を使用しています。28農P2-011A4